

医療ニーズ;つまりにくい栄養チューブ



医療ニーズ提案部門
滋賀医科大学 附属病院 看護部

「栄養チューブを清潔に保ちたい」

■看護部ホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>

■ニーズの背景

- 経腸栄養チューブは内径が3mmと狭いため、容易に閉塞してしまう。チューブ先端部において細菌が増殖するとpHが低下し、栄養剤内に含まれる蛋白質などが変性・凝固する。これが管の上方まで進展し、チューブが閉塞する。

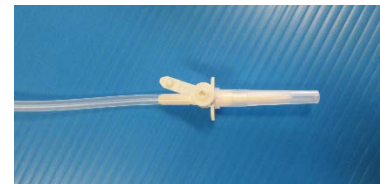
■現在の対応方法

- チューブフラッシュ(チューブの内腔に水道水を流し、十分に洗浄する事)を行なう。
- 栄養剤を十分に洗い流した後に、細菌の繁殖を防ぐ目的で酢水をながす酢水ロックや、pH低下を防ぐ目的で重曹水を流すなどの対策も行なわれてきた。

■使用頻度や市場性(マーケットサイズ)に関する情報

- 経管栄養の実施割合は介護療養病床で62.2%、医療療養病床で63.3%との報告がある。(2016年日本慢性期医療協会)

【イメージ・参考例】現状の栄養チューブ



機能アイデア例

- 構造的に詰まりにくい機能
- 材質的に栄養剤等が付着しにくい機能
- 洗浄操作がしやすい構造、材質のもの

お問い合わせ先

滋賀医科大学 研究推進課 産学連携係

電話: 077-548-2847

メール: hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp